



発達障害コミュニケーション上級指導者

江口修三様

Q1 発達障害コミュニケーション初級指導者講習会に参加したきっかけは何ですか

当時、校内では生徒指導上の問題が多発していました。とりわけ、多動気味の児童への対応が難しく、悪循環に陥っていました。専門的なことを学ぶ必要があるという切羽詰まった動機が本講座への参加のきっかけです。

Q2 初級・中級と学ばれて、

更に上級指導者資格を取得しようとした理由やモチベーションは何でしたか

これまでいろんな研修の機会はありませんでしたが、自分事になっていませんでした。初級講座を受けた後、河野先生の「褒めて・認めて・大事にする」という言葉に魅せられ、さらに詳しく知りたいという思いになったからです。

Q3 上級講座の内容でいちばん

印象に残っているものは何ですか

特に印象的だったのは、金丸先生の講座の中で個別の支援計画を作成した時に「個別支援計画は、家族への『手紙』なのです。」という言葉にはっとさせられ、自分を見つめ直すきっかけになりました。

Q4 資格を仕事にどう生かしていますか

「①子ども理解②子ども(保護者)との信頼関係づくり③保護者とのコミュニケーション」を今の仕事に生かそうとしています。どれも簡単にできる内容ではありませんが、日々努力していることです。

Q5 資格を取得したことで、仕事をすることで何か(どんな)変化がありましたか

子どもと関わる中で、いろんな「困っている子」と出会います。どの子も多様で理解するには時間が必要です。資格を取得したことで、学んだことをもとに慌てず、じっくり向き合うようになりました。

初級受講時の職種…管理職

現在の職種…再任用教諭

Q6 学び続けるにあたって、どのように

資金・受講計画を立てていましたか、工夫したこと等ありましたら教えてください

いろんな講座を受けるたびに新しい発見があり、更に次を学びたいというモチベーションが湧いてきました。お金や時間は大切ですから、学び続けるために何を節約し、自分で時間をどう作るかを考えるようにしています。

Q7 有効期限内(5年間)に学ばれた

再受講講座や他の講座で、どのような気づきがありましたか

河野先生は2本の柱の話(発達障害についての知識+コミュニケーション力)をよくされます。コミュニケーション検定講座や、中級講座を再受講する中で、この2本の柱の必要性を実感しています。そして、学び続ける大切さも気づかせてもらっています。

Q8 資格を今後

どんな人に取得してほしいですか

様々な個性を持つ子が、褒めて認めて大切にされる世の中になるためにも、発達特性をもっている子どもやその保護者の方と関わりあっておられる方はもちろん、そうじゃない方もぜひ受講いただきたいです。

Q9 発達障害について、

これから学びたいことは何ですか

今、学校現場では、いわゆる発達障害の子ども(発達障害と診断されていない子どもも含めます)の対応に悪戦苦闘しています。どうこの子たちに寄り添い、向き合っていけばいいのが、現場の実践者の話を聞いてみたいです。

Q10

上級指導者講座を今後学んでみたい方へひとことお願いします

AMWECの講座プログラムは、本当によくできています。学ぶ中で自分を見つめ直すことができ、自分の生き方を問う機会にもなりました。自分のペーすに合わせながら無理なく受講されることをお奨めします。